

【きっとね！ 米沢のりひさ まちづくり報告会】

2024.7.31 ホテル日航ノースランド帯広

～市長講演要旨～

皆さん、こんばんわ。

ご来賓の皆さまをはじめ、大勢の皆さまに「きっとね！まちづくり報告会」に、お越しいただきました。誠にありがとうございます。大変光栄に感じているところです。



このスライドの写真は、今年で造成 50 周年を迎える帯広の森の航空写真です。市民協働の象徴としての帯広の森ですが、今の時代、存在感がさらに高まっていると思っていますし、これからの時代を考える道標になっていると、感じているところです。

本日のタイトルは「フードバレーとかち～点と点を繋ぐ～」とさせていただきます。

NHK のEテレの人気番組にあります、「100 分で名著」をご覧になっている方も多いと思います。昨年 6 月の放送でナオミ・クライン氏の「ショック・ドクトリン」という本が取り上げられていました。その解説の中で、国際ジャーナリストの堤未果氏の言葉が、印象に残っていますのでご紹介します。「現実の中で起こったことを点として見るのではなく、点と点を繋いで線にする。そして視野を広げることでその線を面に広げる。そこに時間軸の歴史的視点を入れて、立体的に見たときにはじめて浮かび上がってくるものは、私たちが立ち止まらせるか、または、深く考えさせ、人間として確かにしてくれる。」という言葉がありました。

「点と点を繋いで線にする。」というところが印象に残りました。そしてもう一つ、後ほど改めてご紹介しますが、私が帯広市長へ転身を決めるきっかけの一つとなったもので、アップルの創業者のスティーブ・ジョブズ氏が 2005 年にスタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチの言葉です。「Connecting the dots」と言っていましたが、直訳しますと「点を繋ぐ」となります。私は、このジョブズ氏の話を感じ動的に受け止め、「自分の人生の点で何だったのか」、「点と点を繋いだらいったい何が起きるのだろう」と、2005～2006 年の頃に考えたことを思い出しました。その結果、「市長にチャレンジしてみよう」と思ったところです。

このスピーチの中身ですが、「未来の成功というものを予め見据えて、点と点を繋ぎ合わせることは出来ない。我々が出来るのは、振り返ったとき後から繋ぎ合わせる事。いずれ人生のどこかで繋がって、実を結ぶという事を信じるしかない。そう思って、いっぱい点を打って行け。」という内容でした。

本日は、「点と点を繋ぐ」というキーワードを置いて話をしてみたいと思います。

「フードバレーとかち」のニューステージを施行していく上で、これまで行ってきた施策、活動を点としてそれぞれ確認をしてみたいと思います。そして、今後、それらの点をどうやって繋いでいくのか。その繋いだ先に、十勝の価値というものをどうやってつくっていくのか。皆さんと一緒に考えるきっかけになればいいと思っています。

本日の流れ

「点」の確認 ～最近の講演資料より～

- ① 経済同友会 地域共創委員会(7/23)
- ② 十勝でしかできない
「農業・インバウンド戦略」を考える
(4/13)

本日の流れですが、最近外部の方たち向けに行った講演があり、その講演の資料をレビューしていきます。その中で皆さんに、「これが点のつもりかな」または「これが点になるのかな」と感じていただければと思います。

一つ目は、7月23日に東京の経済同友会地域共創委員会のメンバーが帯広にお越しになりました。更別村、芽室町にも行かれました。帯広市役所にお立ち寄りいただいたときに、これまで

の「フードバレーとかち」の歩みについて、一時間ほど、お話をさせていただいたときの資料です。

もう一つは、時代背景や過去の実績を踏まえてこれからの指針について、古くなりますが4月13日、『十勝でしかできない「農業・インバウンド戦略」を考える』という会合があり、そこで講演させていただいたときの資料です。

まず、同友会の地域共創委員会ですが、視察メンバーのトップがリコー会長の山下良則さんで、他、そうそうたる経済人です。経済同友会は、企業経営者が個人として参加をされて、国内外の諸問題を議論して、国に政策提言を行うという組織です。代表幹事がサントリーホールディングス取締役会長の新浪剛史さんです。

<経済同友会 地域共創委員会 視察メンバー>

- 委員長 山下良則(リコー取締役会長)
野田由美子(ヴェオリア・ジャパン取締役会長)
- 副委員長 岡本祥治(みらいワークス取締役会長)
佐藤昌孝(東海東京フィナンシャルホールディングス社長)
鈴木和洋(楽天グループ専務執行役員)
原田文代(日本政策投資銀行常務執行役員)
山内雅喜(ヤマトホールディングス参与)
横尾隆義(地域育成財団代表理事)
- 委員 飯村慎一(光陽エンジニアリング取締役会長)
柏 頼之(日本航空取締役執行役員)
木田雄士(アイガー取締役社長)
桜井伝治(日本情報通信取締役社長)
佐藤 建(住友林業特別顧問)



今回の訪問は、秋に国に行う政策提言に広域連携の成功例、好事例として「フードバレーとかち」を取り上げたいという事で、実際に「フードバレーとかち」を見て、話を聞きたいとこちらにお出でになりました。

タイトルは「フードバレーとかちと広域連携」という形でお話をさせていただきました。

最初のページは自己紹介で私のこれまでの経歴を、履歴書風にお渡ししました。自己紹介の

FOOD VALLEY TOKACHI

自己紹介①

帯広市長 米沢 則寿
よねざわ のりひさ

生年月日 1956年3月12日
出身 帯広市
最終学歴 北海道大学 法学部

略歴

- 1978年04月 石川島播磨重工業株式会社(現川)入社
- 1985年11月 日本合同ファイナンス株式会社(現ジャフコグループ株式会社)入社
- 1989年06月 同社ロンドン駐在員(1993年所長就任)
- 1995年06月 北海道ジャフコ株式会社取締役社長就任
- 2000年06月 株式会社ジャフコ取締役を経て常務取締役
- 2005年02月 ジャフココンサルティング株式会社取締役社長就任
- 2010年04月 帯広市長当選 就任
- 2014年04月 帯広市長当選 2期目
- 2018年04月 帯広市長当選 3期目
- 2022年04月 帯広市長当選 4期目



Copyright © 2024 City of Obihiro

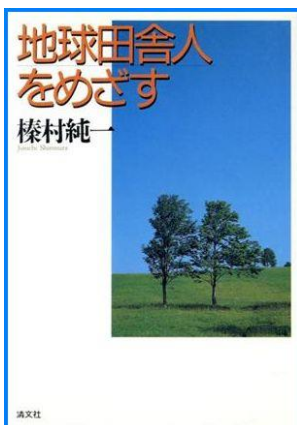
スライドはもう1枚あり、皆さんにお渡ししました。これは普段あまりしない自己紹介で、時間軸できり、その時間軸にどこに住んでいたか、どんな経験、キャリアを積んできたかをまとめてみました。

1956年帯広で生まれ、70年代は札幌と東京、80年代は東京、中東、アフリカ、90年代は東京に戻り、その後ロンドンに行きました。札幌に戻り、東京そして、2010年から帯広です。

その間どんな事が世の中で起こったのかというと、オイルショック、ベルリンの壁崩壊とか、改めて見て世界史的にも日本史的にもいろんな出来事があったときに、偶然の割には結構色んなところに居たと思います。その中でどんな経験をしたか、重工業メーカーにいたときにはどんな経験を積んだか、金融・ベンチャーをやっているときはどういう事だったか等々を言葉にしてみたのが、真ん中のところです。

そして、「三つのふるさと」というのが、私が帯広市長に立候補をするとき、最後に背中を押してくれた言葉で、これも同友会の皆様にご披露したところです。

全国市長会会長をしました、掛川市の榛村純一市長が書かれた本(地球田舎人をめざす)の中に「市長というのは、



田舎という兎追いしふるさと、都会という猥雑なふるさと、そして海外という異質なふるさと、三つのふるさとを持つ人が望ましいのではないかとこういう本を書いており、これに出会ったのが、最終的に市長にチャレンジする事の背中を押してくれた言葉であります。

FOOD VALLEY TOKACHI

自己紹介②

Timeline: '60 帯広 (進学就職) → '70 札幌 東京 (高度経済成長) → '80 東京 (オイルショック) → '90 東京 ロンドン (バブル経済) → '00 札幌 東京 (ベルリンの壁崩壊) → '10 ~現在 帯広 (拓銀破綻, リーマンショック)

Career Stages: 重工業メーカー (Plant Eng'g, プロジェクトマネジメント) → 金融・ベンチャー (VC/PE投資, 企業経営) → 行政 (自治体経営)

Three Hometowns (三つのふるさと): 田舎 (Rural), 都会 (Urban), 海外 (Overseas)


Copyright © 2024 City of Obihiro

FOOD VALLEY TOKACHI

十勝の概要

- 構成自治体 1市16町2村
- 面積 10,831 km²
(≒ 岐阜県)
- 人口 33 万人
- 入植の歴史 明治16年(1883年)~
富山、岐阜、宮城、福島、福井
など民間開拓団の手による

「開拓者精神」



Copyright © 2024 City of Oshima 9

少し長くなりますが、ここから先が同友会の皆さんにお話ししたところです。本日お話ししたい事として先ず、一つ目、十勝のこれまでの歩み、140 年を振り返ってみます。二つ目広域連携の取り組み、私が市長になってからの取り組み 14 年間。140 年と比較すると 10 分の 1 です。それから最後「フードバレーとかち New Stage」について、という三本柱でお話をさせていただきました。ここから先は皆さんご存知のとおりで

すが、「十勝の概要」を説明しました。1 市 16 町 2 村で構成され面積は岐阜県と同じくらい。人口は 33 万人、そして明治 16 年に入植が入り、「開拓者精神」あふれる場所である。

そして十勝の起源は、「晩成社」の設立にある。民間の皆さんの前でお話をしたのであえて赤い字のところ（株式会社）を強調しました。十勝の開拓、これは株式会社が行った。明治のこの時代に株式会社を作ったのは何社日本にあるのか、という事を考えると依田勉三さん、「晩成社」というものに対するスタンスが良くわかります。株式会社ですから株を売ります。そして配当を出します。そういう義務を負いながら開拓をしたというところと、屯田兵の皆さんがやったところでは、自ずと姿勢が違ってくるという事を皆さんにお話ししました。

FOOD VALLEY TOKACHI

十勝の起源

晩成社(1882年設立)



「十勝の開拓」を目的とした株式会社

Copyright © 2024 City of Oshima 10

FOOD VALLEY TOKACHI

十勝140年の歴史

開拓の始まり	馬耕の時代	農機の導入
		
1883年	1897年	1955年

Copyright © 2024 City of Oshima 11

140 年にこだわりますが、開拓の始まりが 1883 年、馬耕の時代が 1897 年、農機の導入が 1955 年。この数字をよく見るとゾクッとします。1897 年から 1883 年を引くと 14 年、原生林から馬を使って農業を始めるところまでいっているという事です。その後 1955 年になると農機が導入されている。先ほどから時間軸と何度か言いましたが、資料を作っていて改めて凄いなと思いました。市長になって 14 年と言いました。馬耕の時代

まで 14 年です。ここまで景色を変える時間が 14 年と考えると、自分でこの 14 年を振り返ると怖くなります。ちなみに 1955 年というのは、私の同級生たちが生まれた年です。私たちが生まれた年にはすでに十勝では農機の導入が行われていた。この時間の流れが震えるほど凄いと思います。

FOOD VALLEY TOKACHI

十勝140年の歴史

現在

2022年

Copyright © 2024 City of Oshima 12

そして 2022 年、自動運転のトラクターをはじめ、ドローンなどの先進技術が導入されています。右の写真のような原生林の時代から 140 年で自然豊かな田園風景と都市機能を持つ市街地。140 年という時間の流れはここまでできるという事です。

開拓から 140 年で十勝の人が何を成し遂げたのか。農作物の日本国内におけるマーケットシェアを書いてみました。これも驚愕だと思います。経済同友会の

皆さんは民間の企業ですから、一つのマーケティングで 10%を超えるシェアをとることがどれだけ大変か、または 10% 超えるシェアを持っていることがどれだけ力があることかご存知ですので、この数字を見て驚いていました。

十勝管内の農協取扱高です。2010 年から右肩上がりできています。3,573 億円まできており、ざっくり 4,000 億円と考えると、10 年前は 2,500 億円

FOOD VALLEY TOKACHI

開拓から140年

農作物

十勝 22% 小麦 (全国 99万t)

十勝 34% 馬鈴しょ (全国 228万t)

十勝 40% てん菜 (全国 355万t)

十勝 70% 小豆 (全国 4.2万t)

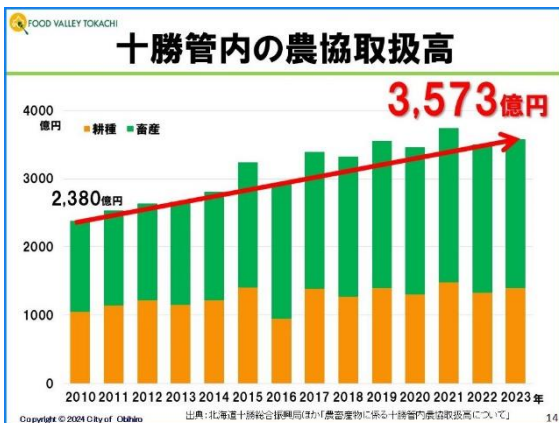
乳用牛・肉用牛

1.4倍

人口 飼養頭数

十勝 17% 生乳 (全国 753万t)

Copyright © 2024 City of Oshima 出典:十勝総合振興局「十勝の農業2023」 13



十勝のJA取扱高の3,573億円でみても5番目にあたるという事です。

伸び率を見て下さい。2012年からの10年間で、全国は4.7%、全道は22.6%、十勝は36%の伸び率です。10年間の十勝の農業の成長と存在感は半端じゃないと思います。

前後でしたので、この10年の農業の残したパフォーマンスというのは驚愕に値します。

そして、十勝農業のポジションについて説明しました。左側は県別で書いてあります。約1兆3,000億円で北海道がトップです。

FOOD VALLEY TOKACHI

十勝農業のポジション

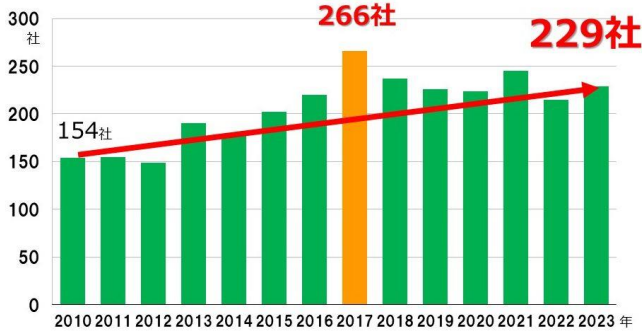
都道府県	農業産出額
1 北海道	12,919
2 鹿児島県	5,114
3 茨城県	4,409
4 千葉県	3,676
5 熊本県	3,512
6 宮崎県	3,505
7 青森県	3,168
8 愛知県	3,114
9 栃木県	2,718
10 長野県	2,708

十勝 (JA取扱高) 3,573億円

伸び率 (2012-2022)
 全国 4.7%
 全道 22.6%
 十勝 35.9%

Copyright © 2024 City of Oshima 出典:農林水産省「令和4年 農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」 15

十勝での新設会社数



のが函館市、釧路市は市政収入が減っているという事です。苫小牧市が続き、その次が小樽市でマイナスになっています。北見市、それから江別市となっています。これを見ても税収が伸びているという事は、確実にこの地域が伸びているという事です。税務署のいろんな統計数字も見ても札幌市を除いて十勝はダントツです。

次に十勝での新設会社数ですが、これも右肩上がりになっており、十勝が元気だという一つの証です。コロナの時代も十勝では確実に新しい会社が増えているという事です。

次に道内主要都市の市税収入増減額です。2009年から2022年まで、市税収入がどれだけ伸びたかという事です。一番左側の高いのが帯広市です。

その隣が旭川市。下になっている

道内主要都市の市税収入増減額

(札幌市を除く、2009年-2022年)



人口減少率です。最近人口の話がよく出ますが、人口は減っています。ただ減り方が札幌圏に次ぐ低さです。右側の図を見ていただくと、黄色い棒グラフが十勝です。左端が石狩で札幌市が入っています。それを除いてみると道内で札幌に次いで減り方が少ないです。まちの元気さの測り方は色んなものがありますが、人口と税金、土地の値段があります。

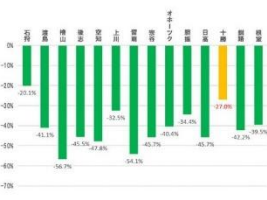
人口減少率

～札幌圏に次ぐ低さ～

道内主要都市

順位	都市名	2020年人口	2050年人口	減少率
1	札幌市	1,973,395人	1,745,608人	11.5%
2	旭川市	329,306	236,115	28.3%
3	函館市	251,084	151,567	39.6%
4	苫小牧市	170,113	131,140	22.9%
5	帯広市	166,536	130,288	21.8%
6	釧路市	165,077	98,544	40.3%
7	江別市	121,056	94,433	22.0%
8	北見市	115,480	76,002	34.2%
9	小樽市	111,299	55,542	50.1%
10	千歳市	97,950	87,335	10.8%

道内各圏域

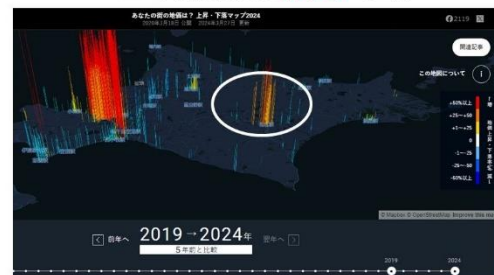


2024年公示地価で、丸で囲っているとこが十勝・帯広です。

ニセコと札幌圏がダントツで赤くなっています。北海道全体の中で、明るい色がついているのが、ニセコ、札幌圏を除いて、ここだけです。今の十勝のプレゼンスは、大雑把な数字ですが皆さんにご理解いただけたと思います。

2024年 公示地価

ニセコ、札幌周辺、**帯広**で上昇





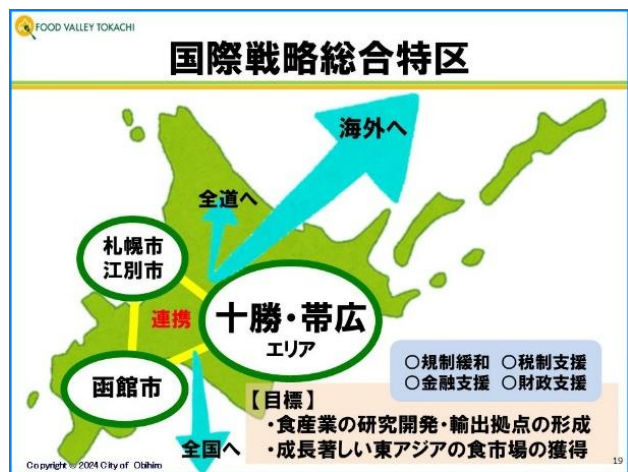
この14年間、広域連携の取り組みを「フードバレーとかち」という形でやらせてもらいましたが、世界共通の4つの課題、「食料」「水」「環境」「エネルギー」という問題に対して十勝でどのようなソリューションを出しているのかという事を十勝全域で考えながら仕事をしてきました。左の図の真ん中に「農業・食」と書いてありますが、普通、こういう図を描くとき真ん中は、「福祉や教育」が入るのですが、「フードバレー

とかち」を皆さんと考えるときに、「仕事をつくろう」「働く場所をつくろう」「稼ごう」を真ん中にした上で、教育などを考えていこうとしたのが「フードバレーとかち」という説明をしました。

- ### フードバレーとかちの推進エンジン
- 北海道フード特区 国際戦略総合特区 指定 (2011年12月~2022年3月)
 - 十勝バイオマス産業都市 認定 (2013年6月)
 - 十勝・イノベーション・エコシステム推進事業 (2016年8月~)
 - 十勝定住自立圏 形成 (2011年7月~)

その中で「北海道フード特区 国際戦略総合特区」、「十勝バイオマス産業都市」、「十勝・イノベーション・エコシステム」を進めてきましたし、「十勝定住自立圏」を皆さんと一緒にやってきたことをお話ししました。

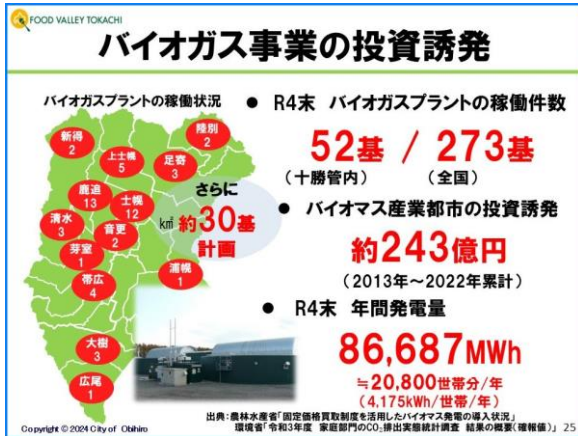
「国際戦略総合特区」は十勝・帯広だけではなく、札幌圏、函館圏も入ってもらい、国の「国際戦略総合特区」の指定を受け、輸出拠点をづくりました。



国際戦略総合特区の投資誘発

580億円 / 680億円
(十勝管内) (全道)

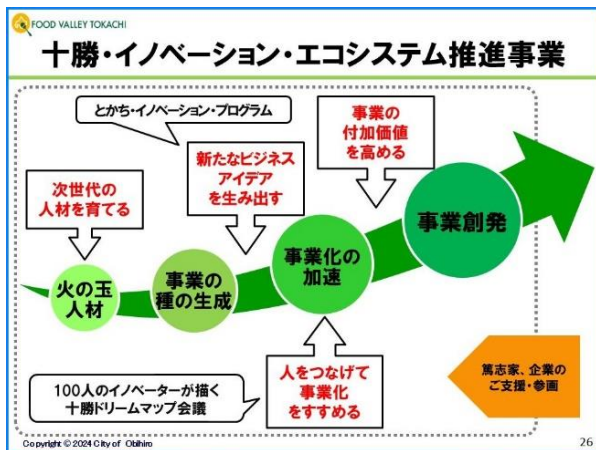
この話をした上で、「国際戦略総合特区」の投資誘発というのが国に報告されています。全体で680億円が全道で投資誘発され、その中で、十勝管内で行われたのが580億円という数字になります。札幌や函館と一緒にやりましたが、この10年ほどの総合特区の果実は十勝でほぼ取ったことがわかります。長芋の貯蔵施設、と畜場等々、こういうことにお金を使ってきました。



バイオガス事業の投資誘発数ですが「バイオマス産業都市」というのを十勝 19 市町村でとりました。今全国でバイオガスプラント稼働件数は 273 基で、その中で十勝は 52 基あります。

「バイオマス産業都市」の誘発投資は 243 億円です。さらに約 30 基が十勝で計画がされています。

「十勝・イノベーション・エコシステム」ということで、人材育成についても説明しました。



あとは「十勝定住自立圏」を 19 市町村でしてきたこと。その結果、生活基盤へ波及をしてきたこと。その結果、生活基盤へ波及をして防災、消防の広域化、これも中々難しいチャレンジでしたが実現しました。高次医療機関の充実ということで、帯広厚生病院を 3

次医療として十勝・帯広の中で医療もしっかり手を繋いでやっていることなど、こういう波及効果についてお話をしました。道内 7 空港の民営化も実現しましたし、新総合体育館、これは PFI 事業という形でつくりました。

「フードバレーとち New Stage」ですが、冒頭お話をした時間軸と空間軸というのを広げていかなければならないと思っています。その際、十勝の皆さんと一緒に「フードバレーとち」や「十勝定住自立圏」をこの 14 年間やらせていただいたことで、「信頼」という

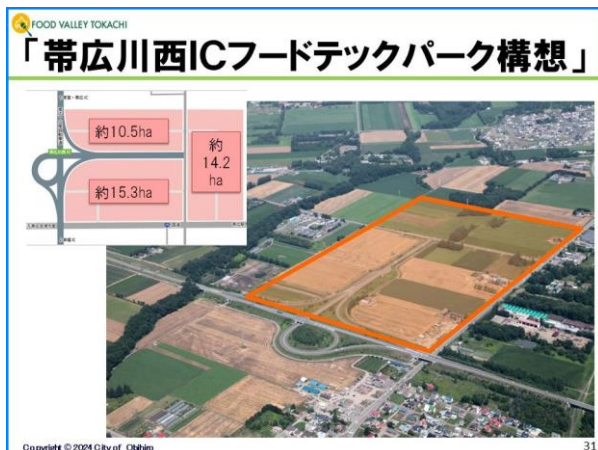
のが形づくられてきたのではと思います。

その中身を言えば「おもいやり」と「共感」ではないかと、こういうお話をしました。

フードバレーとち New Stage①

「食の備蓄・物流拠点おびひろ」そして十勝であります。備蓄・加工・物流、これを新しい視点として、これまでの農業に入れることで農業の成長、産業化や、食の高付加価値が図られるのではないかと考えております。





その中で、帯広川西インターチェンジフードテックパーク構想を今 40 ヘクタールで進めています。今回の東京での要請活動でお話しましたが、これは川西の話をしていいますが、十勝のインターチェンジがある場所、その地域というのはみんな同じ様なチャンスがあるのではないかと感じています。十勝がこれから物流の拠点になっていくということは間違いないことだと思います。それはどうしてかと言えば、繰り返しになりますが、高速道路

のネットワークが拡充していくからです。縦と横の結節点が十勝になります。ここに民間企業が投資意欲をかなりお持ちだと聞いていますので、十勝はこのチャンスを健全な競争をしながら逃がさないように頑張っていきたいと思います。



フードバレーとからち New Stage②

今 3 自治体で共同策定した、帯広圏デジタル化推進構想をつくりました。『DX で拓く「食と健康」の世界的拠点 “帯広圏”』と称していますが、帯広圏 25 万人の中でのデジタル化をしっかりと進めていかなければならないと思っています。

その中で、帯広川西インターチェンジフードテックパーク構想を今 40 ヘクタールで進めています。今回の東京での要請活動でお話しましたが、これは川西の話をしていいますが、十勝のインターチェンジがある場所、その地域というのはみんな同じ様なチャンスがあるのではないかと感じています。十勝がこれから物流の拠点になっていくということは間違いないことだと思います。それはどうしてかと言えば、繰り返しになりますが、高速道路



この中の一例として十勝港に新定期航路が就航しました。先日も一緒に東京を回ったときに詳しくご説明を聞いてさらに確信を深めて帰ってきました。



DXで拓く「食と健康」の世界的拠点“帯広圏”

FOOD VALLEY TOKACHI

フードバレーとかち New Stage②

ローカルハブ ⇒ フードバレーとかちの更なる加速

ローカルハブ (Local Hub)
～地域の活力向上につながるデジタル化～

生産性の向上等による地域産業の活性化
や新事業の創発により、経済的に自立し、
国内外とつながる広域都市圏を目指す

相互に調和・連携

農業 商工業 エネルギー
観光 「人」が中心 交通
防災 福祉 行政
雇用

- ・帯広圏や十勝の「居住人口」
- ・観光客などの「交流人口」
- ・応援や共感意識の強い「共働人口」
- ・地域と多様に関わる「関係人口」

ウェルビーイング エリア
(Well-Being Area)
～住民の幸せにつながるデジタル化～

地域にかかわる様々な人の利便性を向上し、
より安心で幸せな生活のためのサービスが
提供される地域生活圏を目指す

ウェルビーイング エリア ⇒ 生活圏機能の質向上

Copyright © 2024 City of Oshima 35

これを絵にしますと「フードバレーとかち」の更なる加速をすることで、日本国内における農業を核としたローカルハブをつくるということと、生活圏機能をさらにデジタル化で向上させることでウェルビーイング、幸せな快適な生活ができるエリアをつくっていく、この組み合わせにしようと思っています。冒頭、経済同友会の提言に、「フードバレーとかち」、帯広圏に注目して

いるとお話ししましたが、今、国も昨年来、地域生活圏という新しい概念を持ち込もうという形で、国土交通省を中心に動いています。「フードバレーとかち」の活動や帯広圏での活動というのは、親和性の高い新しい概念で、地域生活圏というものにとても近いなと思います。これまで皆さんとやってきたことが、国の政策とかなり重なりつつあるなと実感を持っています。

FOOD VALLEY TOKACHI

日高山脈襟裳十勝国立公園 が誕生

2024年6月25日ー国内最大の国立公園

Copyright © 2024 City of Oshima 36

日高山脈襟裳十勝国立公園が誕生しました。3つの国立公園に帯広空港から2時間以内でアクセスができることになり、これは日本で唯一の場所です。これを大きなチャンスにして前に進んでいきたいですし、トカプチ400 ナショナルサイクルルート指定も受けました。こうすることで、最近国が出してくる施策と、これまで皆さんと一緒にそんな事を意識しないで頑張ってきたことが、かなり重なってきているのではないかと感じています。

食の安全保障という話が出てきたときに、十勝の存在感が関わってきますし、環境問題を無視した産業はあり得ないと言っている時に、環境問題のトップランナーが十勝に居られます。こういう形で何か新しいこと、国が考えていること、国立公園化もそうですが、そういうところにどうやら十勝が今までやってきたことがプロットされるのではないかと感じています。こういうことにしっかりと意識をもって行って、点と点を繋いでいかないとチャンスを逃してしまうのではないかと感じています。

FOOD VALLEY TOKACHI

トカプチ400 ナショナルサイクルルート指定

北海道で初めて指定

TOKAPUCHI 400
Cycling Routes Japan
HOKKAIDO

Copyright © 2024 City of Oshima 37

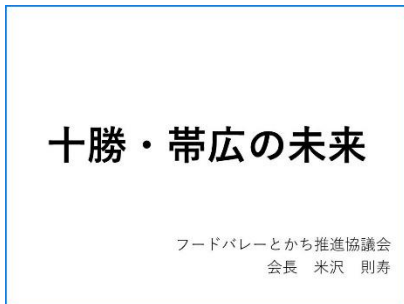


「あおあお ひろひろ いきいき 未来を信じる帯広」というのは、帯広市の第7期総合計画のキャッチフレーズですが、同友会の皆さんがこの最後のページを笑顔で見、「十勝・帯広にぴったりですね」と言っていました。「どこが？」というと「未来を信じる」というところだと、未来を信じて顔を上げるそうです。前向きになるそうです。「この地域は元気だ。」と言っていました。これが一つ目の経済同友会の話です。

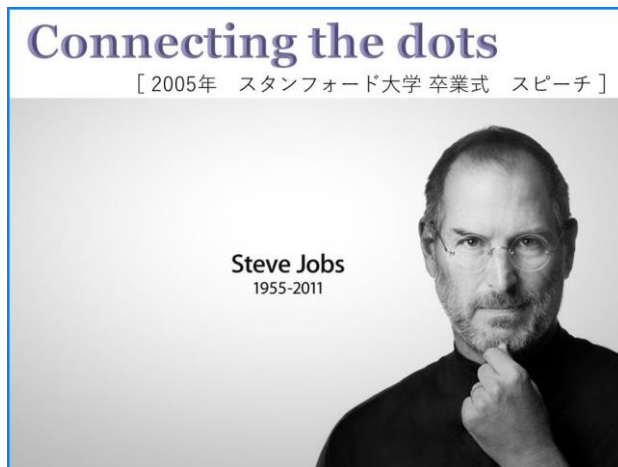
4月13日の会議『十勝でしかできない「農業・インバウンド戦略」を考える』で、短い時間でしたがお話しさせていただきました。その時のタイトルが「十勝・帯広の未来」で、フードバレーとかち推進協議会の会長としてお話をさせていただきました。

「点」の確認 ~最近の講演資料より~

② 十勝でしかできない「農業・インバウンド戦略」を考える(4/13)



最初のページです。



スティーブ・ジョブズ氏の「Connecting the dots」の話をしました。

「未来の成功をあらかじめ見据えて、点と点を繋ぎ合わせることは出来ない。だから皆毎日一生懸命働いて点を打っていきじゃないか。どこかのタイミングで振り返ったり、どこかの時代とあった時に、その点はどこかで繋げる。」こういうふうにスティーブ・ジョブズ氏が言ってくれたように思っています。

「フードバレーとかち」を始めてから14年です。

この点を繋げる時が、いよいよ来たのではないかと。ただそれは今まで点だとは認識できない事がたくさんあるのではないかと。でも、SDGsや色々な問題が出てきたときに、ふと気が付くと「これは十勝でやってきた」、「これもやってきた」とそういうことが、今、十勝には起きていると思います。物流問題も然りです。「高速道路がつながるそうだよ」、「何年後に見え

る」となった瞬間にこれは大変なことになる。そうなってきました。その間に、農業の生産高や新しいチャレンジを十勝の人と一緒にやってきました。それが、今、新しい時代または、5年後、10年後に実現する高速道路の延伸や自動運転の技術などを重ねた瞬間に違った意味に見えてくる。これが今、我々がいる十勝ではないかと思えます。

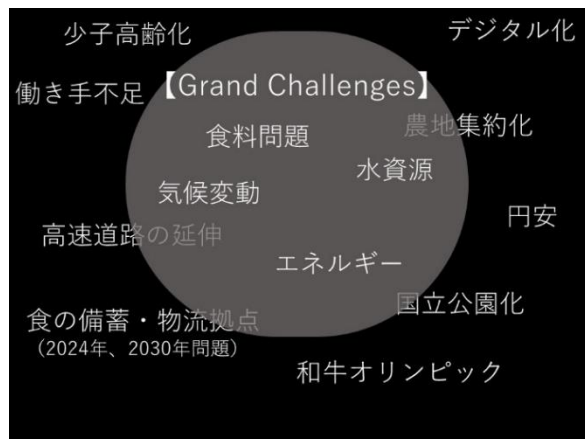
Grand Challenges
世界共通の4つの課題

- ・気候変動
- ・水資源の枯渇
- ・食料の安全保障
- ・エネルギーの供給

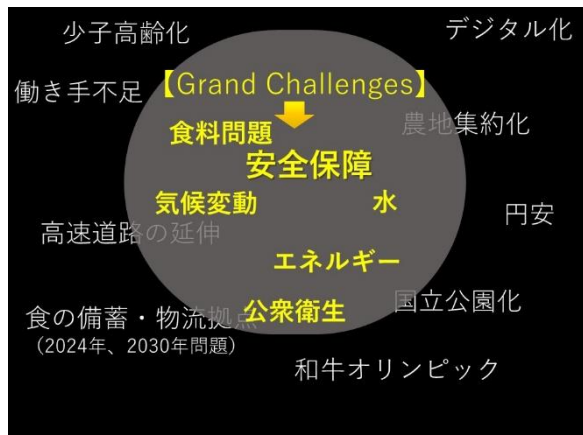
地域産業政策
フードバレーとたち

先ほど言いました「Grand Challenges」。これはおそらく、世界共通の4つの課題に対してのソリューションということで、14年前に始めたということがラッキーだったと思います。時代と丁度シンクロし始めたのではないか。それが「フードバレーとたち」であったと自負しています。

最近、我々を取り巻いている環境変化であります。「少子高齢化」、「デジタル化」、「働き手不足」、「食料問題」云々と書きました。「和牛オリンピック」もやってきます。「食料問題」「気候変動」「水資源」「エネルギー」がこうやって重なることを皆さんと確認したいと思いました。この「Grand Challenges」というのを改めて見ると、「安全保障」という単語で括れるのではないかと。



「食料問題」「水」「公衆衛生」「エネルギー」。最近のウクライナ問題も含めて見てみると、我々のやってきたことが、国の基といえますか、「安全保障」に絡んできます。「安全保障」という単語はいろんな見方があります。あえて書



いたのは、「生きていくために 絶対に必要なものを 守ること」が「安全保障」だという言い方を目にしたことがあります。ということかということ、コストよりも安全供給の方が優先される分野だということです。

安全保障

生きていくために
絶対に必要なものを
守ること

(コストよりも安定供給が優先される)

先週も皆さんと東京へ行って予算を付けて下さいと回ってきました。その時に、「効率的にどうなのか」「順番的にどうなのか」と言われますが、今我々が抱えている4つの問題は全て安全保障にかかわる問題で、それに対して食料という面で新しい解を出すことが出来るかもしれない。それからそれをどう運ぶのかということについても新しい解を出すことが出来るかもしれない。そういう地域に対しての国としての投資というものは、コストよりも安定供給が優先される分野だと主張していかなければならない。そのように感じて帰ってきました。

スマート農業	×	インバウンド・輸出
食・農業	×	物流
環境	×	エネルギー
公衆衛生	×	アウトドア観光
	・	
	・	

スマート農業です。デジタル技術を使って、無人のトラクターやドローンを使わせて上から畑の状況を見たり、人だけでは出来ない、一人では出来ないものを効率的にやるデジタルの技術を使っていく未来型の農業。これを行っているとならば輸出も可能になったり、インバウンドの人たちが関心を持つかもしれません。食と農業と物流は、過去あまり関係ないと思っていましたが、大いに関係してきます。「環境」と「エ

ネルギー」というのも一塊になると思います。化石燃料を使ったエネルギーと自然エネルギー、それと環境問題という話になりますし、コロナで大変な思いもしました「公衆衛生」これも安全保障であります。それとアウトドアとの組み合わせ、これまで無かった組み合わせ、十勝にある資源の組み合わせをちょっと変えて考えていくと、大いに十勝のプレゼンスを上げていくことになります。

Stay Hungry.
Stay Foolish.
↓
開拓者精神

最後のページになりますが、「Stay Hungry.」「Stay Foolish.」これもスティーブ・ジョブズ氏のスピーチに出てくる言葉です。これは「開拓者精神」そのものではないかと思えます。「現状に甘んじるな」「いい子になんかなるな」という意味になると思いますが、十勝の開拓者達は140年の中で大きなものを残してくれたと思います。私共開拓者の末裔として、140年の中でつくっていただいた点、そしてこの14

年間、首長の皆さんとつくってきた新しい点、これを新しい時代相の中でどう繋げていくか、これが大切だと感じています。

まとめさせていただきますが、先週木曜日(7/25)に多くの首長、議長の皆さんと中央要望に行っていました。皆さん、感じられたことだと思いますが、私自身この14回目の中央要望ですが、十勝のプレゼンスがこれまでと比較して高くなっているように感じまし

た。十勝が今注目されている、または期待をされているということを、今回、肌で感じて帰ってきました。繰り返しになりますが、これまで行ってきたことを改めて、無いことをつくっていくのは大変です。でも我々の先輩たちがそれぞれその時々のでんごなものをつくってくれていたのですが、時代として早すぎたもの、または遅すぎたもの色んなものがあったと思いますが、そういうものをひっくるめてもう一度結べる、繋ぐことが出来たらどういうことになるか。無いものを繋ぐわけではないです。我々勝ちたいと思って置いたのですが、必ずしもそれで勝てなかったこともあります。でもここは、周りも今そういう目で見てくれる、そして世界の4つの課題に対しても何らかの親和性のある地域であるという中で、我々このタイミングで、ここから先皆と点と点を繋いで線にしていくこと、そしてその線を面にしていくという努力をしていきたいと思っています。

これが今日のまとめという事にさせていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。